

「東海材とは何だろう？」

東海材担当：
株式会社美濃佐商店
渡辺 義秋

「とうかいざい」について、どう書いて良いか考えてみました。確かに20年位前までは、国産材と言っても産地それぞれの特色を生かして専門問屋なども有りました。

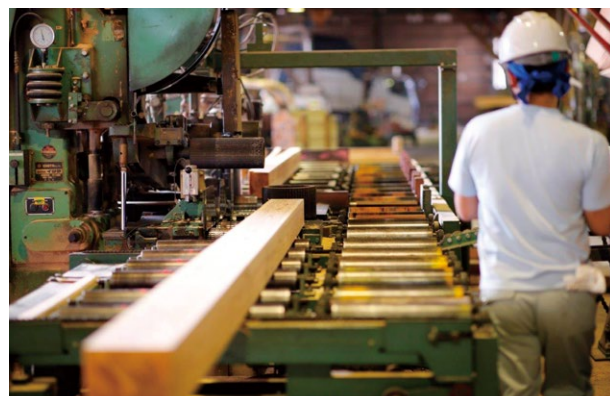
因みに、平成9年の問屋組合の月報の相場表を見ると、「北海道材」「秋田材」「東北近県材」「東海材」「紀州・尾鷲材」「木曽材」「吉野材」「九州材」などが有って、「うちは、秋田の金看板だ。」とか「木曽屋は良い商売をしている。」とか言う名残も有りました。ところが、輸入品が増え、樺などの輸入材のKDプレーナーが当たり前となり、ホワイトウッドが普及し始め、プレカットが当たり前となるなど、問屋の役割の変化などが有り、産地別の専門問屋と言う特色も無くなってしまいました。当然相場表から「北海道材」「東北近県材」「紀州・尾鷲材」「九州材」などが消えて行きました。現在、相場表には「国産材構造材」という項目が登場し、「東海材」という項目は「倒壊」状態になっています。

価格市況調査委員会から、「とうかいざい」について書いてくれと言われて、「どう書いて」良いか考えたのは、以上のような理由です。

そう言ってしまうと身も蓋もないから、東海材の特色を列挙してみます。



羽枯らしした杉丸太





天然乾燥させます



杉の梁も天然乾燥させます



杉の羽目板

羽柄材の4メートル材が有る。桧の死に節が少ないので、すのこ板、フローリング製品が得意。以前は委託屋と言うブローカーが存在して、製材所の特色を知り、問屋からの注文にすぐ答えられる。現在でも葉枯らしした丸太から天然乾燥した製品を出荷している工場がある。天然乾燥の製品は、高温乾燥した製品とは全然違って色と香りが良く材木屋冥利につきます。

桧の香りは特に良く、お客様から「木の香りがする」と言われます。これからも木の良さをアピールしていきたいと思います。

十月八日は木の日です。

「八日は木の日だ、桧は買うよ」

ようかはきのひだひのきはかうよ

反対からも読んでみてください。